

名古屋大学

令和7年度東海地区大学演習林等技術職員研修会の開催

名古屋大学大学院生命農学研究科
附属フィールド科学教育研究センター稲武・設楽フィールド

令和7年10月14日（火）～10月16日（木）に、名古屋大学大学院生命農学研究科附属フィールド科学教育研究センター稲武・設楽フィールドにて、令和7年度東海地区大学演習林等技術職員研修会が開催された。東京大学樹芸研究所から1名、静岡大学天竜フィールドから1名、京都大学上賀茂試験地から1名、高知大学嶺北フィールドから1名、名古屋大学稲武フィールドから2名、計6名が参加した。宿泊場所の稲武フィールド庁舎では、夕食をとりながら情報交換し、懇親も深めた。

主な研修内容を以下に示す。まず1日目に設楽フィールドで、講義1「森林樹木の産地試験」として、全国大学演習林協議会共同研究「ダケカンバ産地試験」の設楽試験地の見学（写真1）を行った。翌日の2日目に稲武フィールドで、講義2「笹の一斉結実・枯死と森林生態系」として、スズタケの120年ぶりの結実・枯死による環境変化、野ネズミなどへの影響についての紹介（スライド発表）、講義3「古橋林業」として、愛知県内最古の（天保の飢饉を教訓に生まれた）人工林と非皆伐複層林の見学（写真2）、講義4「樹木の根の最新観察技術」として、樹木の根の広がりや役割、クロマツ・スギなどの根系構造評価方法についての解説（写真3）、をそれぞれ実施した。最後の3日目に名古屋市近郊にある木材機械関連会社で、講義5「板材加工の独自技術」として、ロータリーレースによる原木の切削・画像処理による単板の自動選別装置の見学（写真4）を行った。

今回はオムニバス形式で、それぞれの内容の実施時間は相対的に短くなったが、各現場でアクティブに進行中のテーマを選抜して取り扱ったことから、幅広く多様な知識・技術を網羅的に体得できたものと思われる。関係各位にこの場を借りて深く御礼申し上げます。



写真1



写真2



写真3

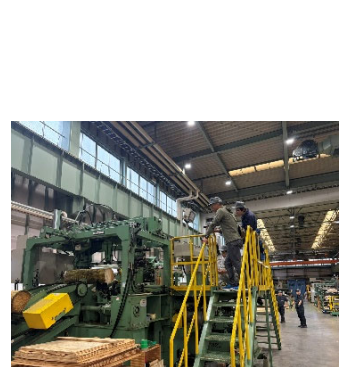


写真4